

令和元年6月19日現在

機関番号：33944

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2018

課題番号：26870253

研究課題名（和文）精神科デイケア導入期における看護支援を包含した早期リハビリテーションの評価

研究課題名（英文）Evaluation of early rehabilitation during the introductory period in psychiatric daycare services

研究代表者

千々岩 友子 (Chijiwa, Tomoko)

一宮研伸大学・看護学部・准教授

研究者番号：40637104

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、精神科デイケア導入期における看護支援を包含した早期リハビリテーションの評価方法を明示することであった。導入期の看護ケアの評価指標の作成のために、インタビュー調査によりデイケア利用者の導入期の体験を明らかにした。次に導入期利用者の体験、看護ケア内容、精神看護に関するケア分類の文献をもとに、導入期の看護ケアリストを作成した。導入期の看護ケアリストについては、全国の精神科デイケア看護師を対象に質問紙調査を行い信頼性と妥当性を明らかにした。平成31年度からは、デイケア導入期リハビリテーションの評価方法を検討し、導入期の看護ケアリストを用いた導入期のリハビリテーションの評価を行っている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

精神科デイケアは、精神科外来を基盤とし、入院医療と地域生活をつなぐリハビリテーション施設という重要な位置づけにある。特にデイケア導入期においては、中断率が高いことが指摘されており、医療が継続しないことが危惧されている。専任の看護師が必要であるという精神科デイケアにおいて、医療中断の多い導入期の看護支援を含めたリハビリテーションの評価は、これまでなされていない。デイケア導入期における看護師のケアリストが開発されることで、看護支援を包含した精神科デイケア導入期におけるリハビリテーションの評価が可能となる。

研究成果の概要（英文）：This research aimed to evaluate rehabilitation during service users' introductory period in psychiatric daycare services, to identify effective nursing practice. We explored the experiences of new daycare service users with psychiatric disabilities during the introductory period. We then developed a list of nursing activities, to use to assess nursing practice for new service users in psychiatric daycare. This was based on a literature review and interviews with psychiatric daycare nurses and service users. A self-administered questionnaire survey was conducted among psychiatric daycare nurses to confirm the list's reliability and validity. We plan to use the list of nursing activities to evaluate rehabilitation during service users' introductory period in psychiatric daycare.

研究分野：精神看護学

キーワード：精神科デイケア デイケア導入期 看護支援 早期リハビリテーション ケアリスト 当事者 体験

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

精神科デイケアは、精神科外来を基盤とし、入院医療と地域生活をつなぐリハビリテーション施設という重要な位置づけにある。平成 16 年の精神保健福祉施策において、「入院医療中心から地域生活中心へ」という改革が進められ、地域生活支援の強化が行われてきた。また、平成 25 年度には、精神疾患が医療計画に追加され、医療政策上の重要分野として取り上げられることになり、地域生活支援と医療を担っている精神科デイケアは、ますます役割が期待されている。

平成 24 年度の精神科デイケアにおける診療報酬改定では、入院中の退院予定の患者に精神科デイケアを行った場合の算定が新しく盛り込まれた。これは、デイケアにおける継続および早期リハビリテーションのアプローチを評価したものである。したがって、必然的に、精神科デイケアの早期リハビリテーションの評価を明示しなくてはならない。

海外では、Marshall ら(2003)が、入院治療とデイホスピタル(日中に外来以外の形態で診断および治療を行い、夜間などは自宅などで過ごす精神保健サービス)治療を比較し、治療期間や再入院率に差がなかったことを明らかにしている。我が国の精神科デイケアは、海外のような急性期に応じたデイホスピタル体制が整備されていないが、早期リハビリテーションが提供される導入期(おおむね 1~3 か月間)に、どれほどの治療効果が現れているのか評価しておくことは、今後求められるデイケアをかたち作るうえでは必要な資料となる。さらに、デイケアにおいては、人員基準により、看護師 1 名が専従でなければならない。これは、デイケアにおいて、看護師によるケアが必要であることを示している。一方、このデイケア導入期においては、中断率が高いことが指摘されており(池淵ら, 1992)医療が継続しないことが危惧されている。医療中断の理由としては、集団参加の拒否や能力以上を見せようとする(池淵ら, 1992)、不安や対人緊張が強いこと(磯石ら, 2000)、デイケア利用の目標が不明確(田近ら, 2005)という報告がある。専任の看護師が必要であるという精神科デイケアにおいて、医療中断の多い導入期の看護支援を含めたリハビリテーションの評価は、これまでなされていない。よって本研究は、デイケア導入期の利用者の体験をベースに、導入期における看護支援の実態も含まれた早期リハビリテーションの評価方法を検討し、効果的な看護支援を解明する。

### 2. 研究の目的

精神科デイケア導入期における看護支援を包含した早期リハビリテーションの評価方法を明示するとともに、効果的な看護支援を解明することを目的とした。本研究プロセスは、3 段階で構成される。(1)精神科デイケア導入期における必要な看護支援を導くため、デイケア導入期の利用者の体験を明らかにする。(2)精神科デイケア導入期の看護支援を数量的に明示するために、評価指標を作成する。(3)全国の精神科デイケア看護師を対象に、(2)で作成したデイケア導入期の看護ケアについての質問紙調査を行い、導入期のリハビリテーションを評価するための「精神科デイケア導入期における看護ケアリスト」を開発する。このケアリストを用いて、看護支援を包含した精神科デイケア導入期リハビリテーションの評価方法を検討し、効果的な看護支援を解明する。

### 3. 研究の方法

#### (1) 精神科デイケア導入期における利用者の体験に関する研究

精神科デイケアを利用する導入期あるいは導入期を脱して 6 か月以内の利用者 13 名を対象に、半構造化インタビューを行った。インタビューのガイドラインは、対象者の背景(年齢、性別、疾患名、発病からの期間、入院歴、生活背景、社会資源の利用状況、就労経験、デイケア利用日数、利用開始からの期間、最終学歴)について、導入期での活動内容、思ったこと、感じたことや行ったこと、導入期で出会った人々との関わりについてとした。調査期間は、2014 年 8 月~9 月であった。インタビュー結果は、IC レコーダーに録音し、逐語におこした。データ分析は質的記述的分析方法で行った。本研究は、所属施設の研究倫理審査の承認後に行った。

#### (2) 精神科デイケア導入期の看護支援の評価指標に関する研究

平成 25 年度の科学研究費助成事業(研究課題:精神科デイケア導入期における看護支援モデルの開発)の研究成果である「精神科デイケア導入期における看護ケア内容」および「精神科デイケア導入期における利用者の体験」、精神科の看護活動分類(野嶋ら, 2004)や、同じく地域精神医療における看護活動である精神科訪問看護で提供されるケア内容(瀬戸屋ら, 2008)などの文献を渉猟し、精神看護学を専門とする共同研究者と討議を重ね、導入期の具体的な看護ケアをリスト化した。

#### (3) 看護支援を包含した精神科デイケア導入期リハビリテーションの評価方法

全国の精神科デイケア施設に勤務する看護師 463 名を対象に、無記名自記式質問紙調査を実施した。調査項目は、対象者の属性、精神科デイケア導入期の利用者に対する認識、(2)の研究で作成した「精神科デイケア導入期における看護ケアリスト(案)」、看護師の自律性尺度(菊池ら, 1997)であった。調査期間は、平成 28 年 1 月~8 月であった。分析方法は、看護実践については、因子分析を行い、信頼性を検証し、妥当性は看護の自律性尺度との関連性から評価した。本研究は、所属施設の研究倫理審査の承認後に行った。「精神科デイケア導入期

における看護ケアリスト」を開発後に、デイケア導入期のリハビリテーションの評価方法について検討した。

#### 4. 研究成果

##### (1) 精神科デイケア導入期における利用者の体験に関する研究

対象者 13 名の背景は、男性 8 名、女性 5 名、平均年齢は  $40.3 \pm 9.8$  歳、疾患名は、統合失調症が 5 名と最も多く、入院経験のある者が 7 名、家族と同居している者が 9 名、就労経験がある者は全員であった。

分析の結果、導入期における利用者の体験は、9 つのカテゴリーが抽出された。具体的には、【初めての体験ばかりで戸惑う】【他者との関わりを閉ざす】【適応しようと試みる】【コミュニケーションで苦悩する】【周囲の人々の声かけで安心する】【他者と徐々につながる】【見えない先行きに焦る】【生活行動が広がる】【回復を自覚する】であった。利用者達は初めての空間で戸惑い、他者との関わりを閉ざしながらもプログラムの参加を通して適応しようとしていた。しかし、初期の戸惑いに対しては、中断を避けるために、詳細なオリエンテーションが必要であった。また利用者達を取り巻く人々からの些細な声かけは、他者と関わることに對して安心感を与え、つながるきっかけとなることが考えられた。さらに他者とつながることは、他者と自己を意識することになり、先行きへの焦りや回復への実感をもたらしめていた。よって先の見通しと回復への自己の変化について利用者とは看護師で話し合っていくことは、デイケア利用の意味づけを強化することになると考えられた。

以上のことから、導入期の看護として、詳細なオリエンテーション、人と人をつなぐ声かけ、自己の変化と見通しを話し合う機会をもつことが必要であることが明らかになった。

##### (2) 精神科デイケア導入期の看護支援の評価指標に関する研究

精神看護学を専門とする共同研究者と検討した結果、41 項目のケア内容を選択した。各項目については、看護行為の意味づけを定義し、ケア内容の明確化と項目間で重複していないかを確認し、語句の修正を行った。これを「精神科デイケア導入期における看護ケアリスト(案)」とした。

##### (3) 看護支援を包含した精神科デイケア導入期リハビリテーションの評価方法

全国の精神科デイケア施設に勤務する看護師 463 名に無記名自記式質問紙調査を実施し、137 部を回収し(回収率 29.6%)、100 部(有効回答率 21.6%)を分析対象にした。年代は、30 代 20 名、40 代 30 名、50 代 34 名、60 代以上 16 名、各経験年数は、看護師  $23.5 \pm 0.9$  年、精神科看護  $14.9 \pm 0.9$  年、デイケア  $6.0 \pm 0.5$  年であった。

デイケア導入期の看護実践については、主因子法、プロマックス回転による探索的因子分析の結果、33 項目 2 因子が抽出され、第 1 因子【セルフケア管理】、第 2 因子【治療参加の維持】と命名した。信頼性については、各因子の Cronbach's  $\alpha$  係数が 0.901 ~ 0.911 と内的整合性が確認された。基準関連妥当性は、導入期の看護実践と看護師の自律性尺度との間で有意な相関 ( $p < 0.05$ ) を示し、妥当性が確認された。よってこれを精神科デイケア導入期の看護実践を測定する「精神科デイケア導入期における看護ケアリスト」とした。

続いて、精神科デイケア導入期のリハビリテーションの評価方法について検討した。具体的には、調査対象者、評価指標等である。当初の計画では、調査対象者を統合失調症に限定していた。それは精神科デイケアに関する研究の多くが、統合失調症を対象にしており、他の研究との比較ができるという利点があったからである。しかしながら、精神科デイケアに携わる精神科医およびデイケア看護師等の現場の立場から、昨今の精神科デイケアは、様々な疾患をもつ利用者が通所しているという意見があり、調査対象者の再検討を行った。本研究の看護支援の評価指標は、統合失調症のみへのケアに限られず、デイケア導入期の看護支援という視点で作成されたものであり、現状を鑑み、調査対象者については、診断名を特定しないことにした。評価指標については、看護の視点、他のデイケア医療従事者の視点、さらに当事者の視点、精神的側面、社会的側面を網羅した評価方法を検討した。結果、QOL、GAF、リハビリテーション評価尺度、看護ケアリストを主軸に精神科デイケア導入時と 3 か月後の 2 時点で評価することにした。新規デイケア導入者の人数が少ないことから、今後も研究協力施設を開拓し、データを収集していく予定である。

#### 引用文献

- Marshall Met al. (2003). Day hospital versus admission for acute psychiatric disorders, Cochrane Database Syst Rev(1).
- 池淵恵美, 他 (1992). デイケア治療における初期中断例の分析, 集団精神療法, 8(2), 167-173.
- 磯石栄一郎, 他 (2000). 当院の精神科デイケア利用者の検討. 岩見沢市立総合病院誌, 26(1), 71-76.
- 田近亜蘭 (2005). デイケア中断に関する要因の検討, 最新精神医学, 第 10 巻 4 号, 409-416.
- 野嶋佐由美, 他 (2004). 精神科の看護活動分類 (第一報). 日本看護科学会誌, 23(4), 1-19.
- 瀬戸屋希, 他 (2008). 精神科訪問看護で提供されるケア内容 精神科訪問看護師へのインタビュー調査から. 日本看護科学会誌, 28(1), 41-51.

菊池昭江,他(1997).看護の専門職的自律性の測定に関する一研究,静岡大学教育学部研究報告(人文・社会科学篇),47,241-254.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2件)

千々岩友子、石村佳代子、精神科デイケア導入期における看護師のケア内容に関する研究、日本デイケア学会誌、査読有、18(2) 2015、3-11

千々岩友子、誰にでもわかる、見えるデイケアを目指して、Psychiatry day care research in fukuoka、査読無、34、2016、41-44

〔学会発表〕(計 3件)

Chijiwa T, Ishimura K, Maeda Y, New user experiences with day care for persons with psychiatric disabilities during introductory period, The 12<sup>th</sup> conference of European Nurse Directors Association(ENDA) and 4<sup>th</sup> International Conference of World Academy of Nursing Science(WANS),14-17 October,2015, Hannover, Germany

千々岩友子、石村佳代子、前田由紀子、精神科デイケア導入期における看護師の関わりの現状 利用者の語りをもとに、第20回日本デイケア学会、2015年10月23~24日、大阪

Chijiwa T, Developing a scale to assess nursing practice during enrolment in psychiatric day-care services, WPA XVII World Congress of Psychiatry,2017, Berlin, Germany

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号(8桁)：

(2)研究協力者  
研究協力者氏名：  
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。